

進歩が生まれるのは、多様性の中からの選択であって、画一性を保持するからではない。

- ジョン ラスキン -

Think out of the box

協働体験型学習プログラム GVS では自分の当たり前が世界の当たり前ではないことに気が付かされることが多くあります。イノベーションの第一歩は先入観なく物事を受け入れ、ありのままをまず受容することかも知れません。

GEP Quiz!

Q1:この地図はどこ
の国で見かける地
図だと思いま
すか？



Q2:これほどこの地
図に見えますか？

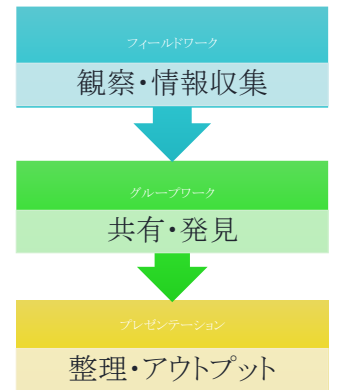


(※答えは裏面に記載)

フィールドで「異なる他者」と見えるもの

世界各国から集まる留学生 (GEP メンバー*)と一緒に活動する LbE Japan では、修学旅行や宿泊行事における「ユニークな自主研修」の1つとして、フィールド(人や情報の行き交うリアルな世界)を学びの場とした活動(協働 ワークショップ)を実施しています。フィールドで出会う事象を様々な視点で捉えることを目的として与えられたミッションに留学生と共に挑戦することで、否応無くコミュニケーションが発生します。彼らが発見したのは、その後のグループワークで明らかになり、お互いの気づきが更なる発見を導きます。

フィールドワーク型 GVSの 基本的なステップ



「今」、「ここ」にいる必然性?!

「ヒロシマ」の「今」。中高生の目にはどのように映り、多様な国からその地を訪れる留学生、観光客に何を考えさせるのでしょうか？
東京の高校1年生が留学生と共に歴史をひもとき、未来を考えるきっかけになるフィールドワークを実施しました。フィールドワーク中には、「自分にとっての幸せを感じる写真を撮影すること」などのミッションに取り組み、生徒、留学生が自分の幸せについて考え、共有することで、様々な形の幸せが存在することに気づき、最終的に平和へ思いを馳せることを目的として活動を行いました。留学生をはじめとして、異なるバックグラウンドを持つ他者と共に同じものを見て、それを共有した時、想像もしなかった見方や考え方があることに気づかされることがあります。そんな気づきが、未知の世界への興味をかきたてます。

GEP Quiz! 答え

A1: オーストラリア
俗説ですが、昔はオーストラリアで使われていたようです。今ではお土産屋さんで見かける程度です。日本中心の世界地図に見慣れていると違和感を感じるのではないのでしょうか。

A2: 山口県
オーストラリアに似ていると思いませんか。海外だという意識で地図を見ると、どこかの国の地図に見えるかもしれませんね。

気づきから広がる自分の可能性

フィールドワークを行うことによって、生徒も留学生も非日常という旅先に一緒に身を置く仲間となります。同じ目的を持って活動ができる機会だからこそ、同じ目線で異なるものが見えてきます。

【生徒のコメント（一番印象に残った言葉）抜粋】

・外国の方にインタビューをした時に「晴れの日に幸せを感じる」と言っていたこと。

※このコメントは生徒が自分と異なる価値観と出会った象徴的な場面だったようです。自分にとっての当たり前が当たり前ではないことを肌で感じた瞬間だったのかもしれませんが。

同じ方向を向いて学ぶ

フィールドワーク後に様々な気づいたことを共有し、グループで一つのプレゼンテーションにまとめていく過程では、異なる意見、アイデアを理解し合います。多様な価値観を受け入れながら協働することで、異なることの価値、そして普遍的な価値に気づき、世界は広くとも繋がっていることも実感します。



最後の発表の場面では、生徒の積極的な姿や、イキイキした表情に驚かされることがあります。フィールドワークというリアルな環境で体験したことだからこそ、自然と自分の言葉で伝えたいという気持ちが湧いてきます。短い時間の中で、コミュニケーションツールとして英語を使う姿勢に大きな成長を感じとることができます。

※GVS=世界中から集まる留学生「GEPメンバー」との協働体験型学習プログラムです。

※GEP=Global Education Project (GEP)は、LbE Japan のミッション「世界の人々との協働を通じて明るい未来を実現する」に共感した留学生のコミュニティです。